

# ⑦ 緑区田園都市沿線文化動向調査

上野治美

## 一 調査の目的

緑区北部支所は二十五万人以上の人口を擁しながらも、区域内に文化施設は少なく、また、横浜中心部にも遠いため、地下鉄があざみ野駅につながるまで、人々の文化的な行動関心は専ら田園都市線で結ばれている東京、川崎へ向いていたと言えよう。

このような状況にあって、北部支所は他区と同じような事業展開ができないため、この地域にふさわしい文化行政の方向を探るための実態把握に、平成二年度から取り組むことになった。

平成二年度は「田園都市沿線区民文化動向調査」として、地域住民の文化活動の特徴を数量的に把握した。さらに平成三年度は「文化振興計画策定準備調査」として、文化活動の実態を具体的な意見提案として収集した。

「文化振興計画」とは、区民文化センターの開館を契機として、地域での文化活動の振興を

目指した具体的な活動計画を該当区が策定するもので、市民局が区民文化センターの開館を控えている区に呼び掛けて実施している。北部支所としては、区民文化センターの開館だけにし

ばらず、分區を大きな契機として捉えて、分區に伴う市民利用施設の整備を踏まえた文化活動の振興について、検討しまとめることにした。従って調査全体は、平成二年度に開始して、平成四年度の「文化振興計画策定事業」までの

三年がかりで、調査結果も平成二年度、三年度は報告書としてとりまとめ、平成四年度は文化振興計画を策定する。

## 二 調査の成果

### ① 「田園都市沿線区民文化動向調査」

支所管内住民（二千人）に対する、文化活動・文化施設に関するアンケート調査

アンケート結果から、通勤・通学タイプ別に、

- 一 調査の目的
- 二 調査の成果
- 三 事業・施策とのつながり
- 四 調査の課題

文化活動や関心の方向にかなり大きな違いがみられる。また、文化活動のうち、参加型のグループ活動と鑑賞行動を結び付けるアマチュアグループによる企画・プロデュースへの関心が高まっております。地域に根差した新しいタイプの文化が生まれつつあるといえよう。さらに、種々の活動への関心の関連の中心には「講座・教室」があげられ、今後の文化行政では種々の方向への関心の相互触発が起きるような場づくりが重要になる（表）。

① 音楽を中心とした団体（三十八団体）に対する施設利用に関するアンケート調査

### ② 「文化振興計画策定準備調査」

① 地域活動を行っている人（三百九十六人）に対する文化活動に関する自由回答式調査。

② 施設（百三十八施設）に対する地域とのかかわりに関するアンケート調査。

③ 個別ヒアリング調査（十二人）

この地域の特色や、さまざまな文化活動の担い手たちが感じていることを踏まえて、この地域の特徴を生かした、地域文化の活性化の方向についての仮説的な問題整理を、文化施設づくりと運営・資金・人材・交流とネットワーク・情報流通などの項目で行った。

また、文化に対しては多様な考え方があり、行政の支援に関しては、オープンで公平なルールを求める声が強い。

### ④ 「文化振興計画策定事業」

地域に即した文化振興の方策をまとめるとともに、新区での文化事業の考え方をまとめた指針を策定する。

### ⑦ 文化振興計画策定検討会

地域における文化活動活性化の環境づくりについて、文化活動をしている様々な分野の方十人による検討会を四回開催。

### ① 文化活動交流のつどい

文化活動を通じたコミュニティづくりをテーマにしたつどいで、講演会とライブスタイル別の活動事例報告、ディスカッション。

講演会は、佐藤一子埼玉大学教授による「文化的なコミュニケーションによる新しい人間関係の創造」について、地域文化の振興を文化行政の役割を踏まえて、今日的な文化活動の意義

が語られた。活動事例は、ライブスタイル別に、文庫活動からスタートして、親と子の文化を支援する会社を設立した宮脇悦子さん、港北ニュータウンで大人が楽しむイベントを展開して、新しい街の人と人の輪を広げているプロデュース的存在の山田美千子さん、六十歳以上の男性だけの合唱団「ドッグウッド」の幹事として活躍し、地域の中で退職後の新しい仲間づくりの中心的な存在の寺尾隆さんの三人が報告した。

### 三——事業・施策とのつながり

今までの調査結果は、横浜市の文化行政の方向や北部支所管内の特色を踏まえて、次の項目に整理したが、これらを、いかに施策に反映させるかが課題である。

①文化活動が地域コミュニティづくりに果たす役割に着目し、調整係の区づくり事業との情報交流を進めるなどして、施策化を検討する。

②区民の企画、参加による文化活動の仕組みづくり（新たな実行組織をつくる）の検討と、自主的な活動が、さらに活性化するための支援のルールづくりを行う。

③新たな芸術祭を企画し運営するなど、文化活動の交流の場をつくり、相互触発を促進する。

④いきいきとした文化活動が地域に根づくため

には、地域の中で議論を重ねて、共通認識を作り出す必要がある。また、文化担当が地域のコーディネイター役となり、情報・人材・事業・施設等の交流を進め、地域における文化活動の層を厚くする。

### 四——調査の課題

①区単位の調査結果がどこまで施策に反映できるか。区内における関係機関の協力をもちたい。調査の各段階での関係局の参加が必要である。

②調査に関する情報の窓口がないため、既存調査の活用ができない。全庁的な調査情報の活用を進めるとともに、区単位の調査内容、結果の相互連絡が必要である。

③調査に対する専門的な知識の持ち合わせが乏しいため、委託先への適切な指導等が不十分になりがちである。（調査委託に関する研修の機会、相談の窓口が必要）

④委託内容に適切な委託先を見つけるための情報もないため、委託先の選定も限定された中で進めざるをえず、また委託内容と委託経費の適否の判断が難しい。

⑤本市の多くの局区で毎年多大な調査委託を繰り返しているが、その蓄積は、本市の中にされ

表 文化活動への参加状況（「文化活動・文化施設に関するアンケート調査」結果抜群）

(1)この一年間に出かけた文化イベント（複数回答）

8割の人が何らかの文化イベントに出かけている。出かけている文化イベントは、映画鑑賞が5割を超えトップ。

1位 映画鑑賞	51.8%	4位 演劇鑑賞	21.9%
2位 絵画展	43.5%	5位 工芸展	12.0%
3位 音楽会	41.0%		

(2)コンサート・観劇・美術展など（映画を除く）の鑑賞頻度

「年に1～2回」と答えた人が、一番多く、全体の3分の1強。またこれを通勤通学先別に見ると、男性の「通勤通学をしていない」人（いわゆるリタイア組）及び女性の「東京・その他通勤通学者」に鑑賞頻度の高い人が多くなっている。しかし一方、男性の「通勤通学をしていない」人は「出かけない」人も4割近くいる。

月に4回以上	1.0%	年に1～2回	34.3%
月に2～3回	6.8%	2～3年に1回	9.2%
月に1回位	11.5%	出かけない	17.2%
2～3カ月に1回位	18.4%		

(3)一番よく出かける文化施設

1位 東京都内の施設	69.2%
2位 緑区内にある施設	14.5%
3位 横浜市にある施設（緑区を除く）	9.5%

(4)今後やりたい文化活動（複数回答）

今後何らかの参加型文化活動をしてみたい人は全体の73%と意欲的な人が多い。

分野別に見ると次のとおり。

1位 音楽活動	23.3%	4位 映画・ビデオ	14.4%
2位 工芸	20.4%	5位 華道・茶道	13.7%
3位 書道	17.8%		

ないで、少数の委託先に集中し、委託先に本市の貴重なデータが集積されていると思われる。

相当額の委託料とデータの流出を考えれば、今後本市の中に、調査専門のシンクタンクを設け

ることを考えてみるのではないかと、緑区北部支所市民課地域文化振興担当係長▽